

(様式2B) 個別箇所評価総括表(継続) (要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度未進捗率	進捗状況				
1	ひろせ 広瀬 (南牧村)	谷止工7個、床固工3個 谷止工補修3個 護岸工280m 山腹工0.17ha 土留工4個、緑化工 森林整備22.00ha (工期:H22~H24)	谷止工1個 床固工3個 山腹工0.02ha 土留工2個 緑化工 森林整備2.00ha	谷止工2個 谷止工補修3個 護岸工280m 山腹工0.09ha 土留工1個 緑化工	谷止工6個 護岸工280m 谷止工補修3個 山腹工0.15ha 土留工2個 緑化工 森林整備19.00ha	必要性 A	26%	計画どおり進んでいる。 H22に溪間工を実施し、H23に引き続き護岸工及び山腹工等を実施する。	渓流沿いの森林の 荒廃により、今後も渓 流の浸食による土砂 流出、流木被害が発 生するおそれがある ため、継続して森林整 備と溪流施設の一体 的な施工を行うこと により溪流の安定を図 り、下流集落等を保全 する必要がある。	重要性が高く、必 要性、緊急性も認め られる。	「継続」	
						重要性 A		特記事項 特になし。				
		2億2200万円	5870万円	5570万円	1億6330万円	効率性 A		B/C(費用対効果)=3.87				
						緊急性 A		住民参加状況等 本数調整伐の実施箇所のとりまとめ、承諾書の取得等に、地元 関係者の協力がある。				
2	だいめいしょうじん 大明神 (上田市)	山腹工0.40ha 落石固定工4,000㎡ 森林整備12.00ha (工期:H22~H25)	山腹工0.06ha 落石固定工610㎡ 森林整備6.00ha	山腹工0.11ha 落石固定工1,100㎡	山腹工0.34ha 落石固定工3,390㎡	必要性 B	28%	H22年度は全体計画調査を行い、固定工の一 部に着手。 H23年度は引き続き固定工を実施する。	落石対策を実施した 治山事業施工地にお いて、散発的な落石 が人家、神社周辺に 及んでおり、上部斜面 には未対策の落石発 生源が点在している おり、緊急性が高いた め、事業を継続して実 施する必要がある。	落石対策の必要性 は認められる。	「継続」	
						重要性 C		特記事項 特になし。				
		1億2360万円	2480万円	3260万円	8860万円	効率性 A		B/C(費用対効果)=2.82				
						緊急性 B		住民参加状況等 特になし。				
3	ほりこし 堀越 (上田市)	山腹工0.35ha 法切工270㎡ 簡易法枠工2,200㎡ 伏工2,400㎡ ほか (工期:H19~H23)	休止	山腹工0.25ha 法切工50㎡ 簡易法枠工1,610㎡ 伏工2,210㎡ ほか	山腹工0.25ha 法切工50㎡ 簡易法枠工1,610㎡ 伏工2,210㎡ ほか	必要性 B	21%	H21~H22年度は山腹下部の経過観察のため 事業休止。H23年度は残る山腹下部斜面を復 旧し、完了させる。	重要な農業用水路 の取水施設を保全す るために、H19年に拡 大崩壊が進行する崩 壊地上部の対策を実 施した。下部山腹につ いても自然復旧の見 込みがないことから、 H23年度に対策工を 実施し完了を図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」	
						重要性 B		特記事項 H21~H22年度は山腹下部の自然復旧状況を経過観察したため 休止としていたが、自然復旧の見込みがないことから対策工が必要 との判断となった。				
		5500万円	-円	4370万円	4370万円	効率性 A		B/C(費用対効果)=7.87				
						緊急性 A		住民参加状況等 特になし。				
4	しもはんが 下半過 (上田市)	谷止工6個 床固工1個 山腹工0.21ha 土留工2個 実播工400㎡ 筋工500m 森林整備3.50ha (工期:H21~H23)	谷止工2個 山腹工0.10ha 土留工2個 実播工400㎡ 森林整備1.90ha	谷止工2個 床固工1個 山腹工0.08ha 土留工1個 筋工200m 森林整備1.00ha	谷止工2個 床固工1個 山腹工0.08ha 土留工1個 筋工200m 森林整備1.00ha	必要性 A	56%	計画どおり進んでいる。 H22年度までに溪間工7個中4基完了。H23は残 る3基と山腹工、森林整備を実施し完了。	施設整備と森林整 備を組み合わせた効 果的な計画であり、地 域の防災意識を高め る等、減災効果が高 いため、事業を継続し H23年度での完了を 図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」	
						重要性 A		特記事項 ハード・ソフト対策の両面から減災効果を高めることを目的に、住 民を対象とした「災害につよい森林づくり」に係る説明会、森林整備 現地学習会を開催し、地域ぐるみで森林整備への取組みを通じて 自主防災意識の向上につなげる計画である。				
		8480万円	3450万円	3710万円	3710万円	効率性 A		B/C(費用対効果)=15.81				
						緊急性 A		住民参加状況等 特になし。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山		補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課				
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況				
5	おおくら 大倉 (上田市)	谷止工7個	谷止工3個	谷止工2個	谷止工4個	必要性 B	38%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業で谷止工3 個を実施。 H23年度は引き続き谷止工を設置する。	平成22年8月豪雨災 害で実施した災害関 連緊急治山事業の残 工事であり、早期復旧 のため継続して事業 を実施する必要がある。	重要性、緊急性が認 められる。	「継続」	
		[工期:H22~H26]				重要性 A						特記事項 平成22年8月豪雨災により、下方の集落及び市道に土砂流出。 災害関連緊急治山事業対応。
		1億8750万円	7070万円	4910万円	1億1680万円	効率性 B						B/C(費用対効果)=3.57
						緊急性 A						住民参加状況等 特になし
6	もとうんの 本海野 (東御市)	山腹工1.00ha 実播工4,310㎡ 伏工3,390㎡ 筋工1,500m ほか	山腹工0.40ha 実播工1,700㎡ 伏工800㎡ 筋工590m ほか	山腹工0.40ha 実播工1,500㎡ 伏工1,500㎡ ほか	山腹工0.40ha 実播工1,500㎡ 伏工1,500㎡ ほか	必要性 C	62%	計画どおり進んでいる。 H22までに山腹斜面の約60%が施工完了。H23 年度に残る40%の復旧を行い完了予定。	段丘崖の森林の荒 廃が進行すると、倒木 により段丘の崩壊に つながるため、また、 宿場町の景観保全に も効果が高いため事 業を継続し、H23年度 での完了を図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」	
		[工期:H21~H23]				重要性 B						特記事項 しなの鉄道等の重要な施設の保全を図るとともに、観光資源である 宿場(海野宿)の景観保全に資する整備とする。
		1億4080万円	4360万円	5380万円	5380万円	効率性 A						B/C(費用対効果)=3.88
						緊急性 B						住民参加状況等 特になし。
7	わかみやざわ 若宮沢 (岡谷市)	谷止工5個 森林整備7.50ha	谷止工1個	谷止工2個 森林整備7.50ha	谷止工2個 森林整備7.50ha	必要性 B	95%	計画どおり進んでいる H22までに谷止工5個中3個完了。H23年度は残 る谷止工2個及び森林整備を実施し完了予定。	渓岸浸食が激しく、深 床の堆積土砂も認め られるため治山事業 を行い安定を図る必 要がある。平成18年 度豪雨災害の被災地 であり、溪畔林の整備 と施設整備を組み合 わせた取組みのモデ ルとしても重要である ため継続して事業を 実施し、H23年度での 完了を図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」	
		[工期:H21~H23]				重要性 A						特記事項 特になし。
		9170万円	1850万円	4370万円	4370万円	効率性 A						B/C(費用対効果)=7.41
						緊急性 A						住民参加状況等 地元住民が主体的に施設の維持管理等に関与できるよう、体制 づくりを進めている。
8	さんくぼ 三ノ久保 (諏訪市)	谷止工増厚・嵩上3個 床固工増厚・嵩上1個 流木止め設置2箇所	谷止工増厚・嵩上1個 流木止め設置1箇所	谷止工増厚・嵩上1個	谷止工増厚・嵩上1個	必要性 A	87%	計画どおり進んでいる。 H22までに機能強化4個中3個完了。H23は残る 谷止工増厚等の機能強化を実施し、完了予 定。	土石流、死亡災害に 至った山腹崩壊の災 害履歴地であり、下流 は人家が密集する市 街地のため既設谷止 工の補修や機能強化 を行う必要がある。こ のため事業を継続し、 H23年度での完了を 図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」	
		[工期:H20~H23]				重要性 A						特記事項 特になし。
		1億9540万円	1億590万円	2620万円	2620万円	効率性 A						B/C(費用対効果)=5.01
						緊急性 B						住民参加状況等 地元で防災協議会を設置し、積極的にパトロールや施設の維持 管理を行うなど、住民が関与する体制が整っている。

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山			補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課
----	-------------	----------	--------	--	--	--------	----	--------------

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況				
9	あかつがわ 赤津川 (諏訪市)	谷止工増厚・嵩上1個 谷止工増厚補修1個 〔工期：H21～H23〕	(H21繰越工事実施)	谷止工増厚補修1個	谷止工増厚補修1個	必要性	59%	計画どおり進んでいる。 H21繰越工事により、当初計画分の谷止工機能強化は完了。H23は新たに補修が必要と判明した谷止工の機能強化を実施する。	上流域の森林で倒木が多く発生していたため、土砂や流木の捕捉機能の効果を高める既存えん堤の改修を実施してきたが、新たに補修が必要と判明した施設の機能強化を図るため継続して事業を実施し、H23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」	
						重要性						特記事項 H23変更 谷止工増厚補修1個増 事業費2184万円増 工期延長2年 上流既設構造物のH22調査の結果、老朽化が著しく、緊急に対応する必要がある施設が存在が判明したため、全体計画に谷止工補修を1基追加し、H23に施工することとした。
						効率性						B/C(費用対効果)=5.82
						緊急性						住民参加状況等 特になし。
10	みなみくりだいら 南栗平 (茅野市)	山腹工0.65ha 法枠工430㎡ 落石固定工1,150㎡ コンクリート吹付工300㎡ ほか 〔工期：H22～H24〕	山腹工0.07ha 土留工1個 実播工97㎡ 落石固定工70㎡	山腹工0.41ha 法枠工430㎡ 落石固定工900㎡ コンクリート吹付工100㎡ ほか	山腹工0.58ha 法枠工430㎡ 落石固定工830㎡ コンクリート吹付工300㎡ ほか	必要性	17%	計画どおり進んでいる。 H22は地質調査とともに対策工の一部に着手。H23年度は引続き落石対策を進める。	落石対策を目的とした治山事業施工地からの新たな落石により、下方市道通行車両等に被害が及んでおり、今後規模の大きな岩塊の剥落も想定され緊急性が高いため、継続して事業を実施する必要がある。	緊急性が認められる。	「継続」	
						重要性						特記事項 特になし。
						効率性						B/C(費用対効果)=2.89
						緊急性						住民参加状況等 特になし。
11	たびじり 大日尻 (辰野町)	谷止工13個 床固工6個 森林整備 2.00ha 〔工期：H18～H24〕	谷止工2個 床固工2個	谷止工3個 床固工1個	谷止工5個 床固工3個 森林整備2.00ha	必要性	56%	計画どおり進んでいる。 H22までに谷止工8個、床固工3個完了。 H23はH22に追加した渓流の整備に重点を置き実施する。	H18年7月豪雨により渓流の荒廃が進行。渓流内、渓流沿いの荒廃林分を起因にした災害の助長を早急に解消し、減災効果を高めるため、事業の継続が必要である。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」	
						重要性						特記事項 H22変更 谷止工7個、床固工3個追加 1億8230万円増 工期延長2年 H18年災害発生渓流に隣接する渓流において、渓岸侵食の進行により倒木の発生が増加し、新たな災害発生原因となり緊急に対応する必要があるため、全体計画を変更して対応した。
						効率性						B/C(費用対効果)=3.50
						緊急性						住民参加状況等 特になし。

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
12	きたみごうち 北小河内 (箕輪町)	谷止工6個 山腹工1.00ha 土留工11個 実播工1,600㎡ 伏工4,100㎡ (工期:H19~H23)	谷止工 1個	山腹工0.50ha 土留工6個 伏工2,300㎡ 水路工100m ほか	山腹工0.50ha 土留工6個 伏工2,300㎡ 水路工100m ほか	必要性 A	78%	計画どおり進んでいる。 H22までに災害発生源の1つの山腹、下流の谷止工設置は完了、H23は残るもう1つの災害発生源の山腹崩壊地を復旧し、完了予定。	H18年災害の土石流発生源対策を進め、再度災害から集落を保全するために、事業を継続する必要がある。 H22年度に土石流発生源支流において新たに確認された荒廃山腹について復旧を行い、平成23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」
		3億670万円	3600万円	6880万円	6880万円	重要性 B	特記事項 H21変更 谷止工3個追加 山腹工0.5ha増(土留工5基、水路工、実播工追加)事業費1億400万増 H18災害発生崩壊地の復旧のため、山腹工、谷止工を追加、南に隣接する仁蔵沢で倒木が著しいため、谷止工を追加して実施した。 H22変更 山腹工0.4ha増(土留工6基追加)、谷止工1基廃止 事業費1億1,100万増 工期延長2年 H18災害発生地の支流最上流部急斜面を精査したところ、堆積土砂が厚く脆弱で湧水も多く、今後崩壊する危険があるため、山腹工を追加して実施する。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=17.30				
					緊急性 A	住民参加状況等 平成18年度以降、災害対策委員会、治山対策委員会を四半期に一度程度実施している。H22年3月区民による植樹実施					
13	かまくらざわ 鎌倉沢 (箕輪町)	谷止工3個 床固工2個 護岸工200m 森林整備10ha (工期:H21~H25)	護岸工 50m	床固工1個 護岸工56m	谷止工2個 床固工1個 護岸工56m 森林整備6ha	必要性 A	63%	計画どおり進んでいる。 H22年度までに谷止工1個と護岸工の3/4を完了。 H23年度は引続き護岸工の残り1/4と床固工を実施する。	市街地に近接した荒廃地の整備であり、地域ぐるみでの減災対策の推進の機運が高まっているため、ハード対策とソフト対策の組み合わせによる減災対策のモデル地区として事業を継続する必要がある。	必要性が認められる。	「継続」
		1億920万円	2730万円	2290万円	4060万円	重要性 B	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=6.50				
					緊急性 B	住民参加状況等 地元住民が主体的に施設の維持管理等に関与できるよう、体制づくりを進めている。					
14	かみがわら 上河原 (飯田市)	山腹工0.90ha 土留工9個 吹付工2,500㎡ 実播工6,300㎡ 伏工3,400㎡ ほか (工期:H19~H24)	山腹工 0.10ha 土留工2個 吹付工1,850㎡ 実播工1,000㎡ 伏工 850㎡ ほか	(H22補正繰越工事実施)	山腹工0.54ha 土留工4個 吹付工1,160㎡ 実播工2,450㎡ 伏工1,330㎡ ほか	必要性 A	55%	H23年度はH22事業(補正含む)の実施により、4ブロックのうち、松川下流側2ブロックについて完了予定。	市街地に近接した河岸段丘に発生した崩壊地の復旧工事であり、今後の地震や豪雨により大規模に崩落するおそれがあるため、事業を継続する必要があるが、残る2ブロックについては、自然復旧の可能性について見極め、工法、事業量を精査のうえ実施していく。	必要性、緊急性が認められる。	「継続」
		2億8390万円	5970万円	-円	1億2670万円	重要性 B	特記事項 H23年度はH22事業(補正)の繰越工事を実施。 松川上流側の2ブロックについては、自然復旧の可能性があるため、H23年度は経過を観察し、残事業量及び所要年数について精査を行う。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=2.00				
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし					

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
15	たかもりやま 高森山 (飯田市)	山腹工0.73ha 落石固定工1000m2 落石防護柵工40m 岩接着工 森林整備2.0ha (工期:H22~H24)	山腹工0.73ha 岩接着工	(H22補正繰越工事実施)	山腹工0.73ha 落石固定工1000m2 落石防護柵工40m 岩接着工 森林整備2.0ha	必要性 B	39%	計画どおり進んでいる。 緊急性の高い箇所から岩接着工を実施している。 H23はH22補正(繰越)事業を実施する。	落石対策に取り組んでいる保安林において、通学路でもある市道に新たな落石が発生したため、緊急性の高い箇所から順次施工しているが、道路通行者の安全を確保するためにも継続して事業を実施する必要がある。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		6800万円	2620万円	- 円	4180万円	重要性 A	特記事項 H23年度はH22事業(補正)の繰越工を実施。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.32				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
16	きざわ 木沢 (飯田市)	谷止工5個 谷止工嵩上4個 床固工3個 山腹工0.05ha 土留工1個 伏工500㎡ ほか (工期:H22~H25)	谷止工3個	谷止工1個	谷止工2個 谷止工嵩上4個 床固工3個 山腹工0.05ha 土留工1個 伏工500㎡ ほか	必要性 B	52%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業により谷止工3個を実施。H23年度は隣接する渓流の対策に着手する。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		1億8530万円	9690万円	2550万円	8840万円	重要性 A	特記事項 H22年7月豪雨により、国道及び木材加工施設に土砂が流出。災害関連緊急治山事業対応。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=4.57				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				
17	しょじがわ 所蛇川 (天龍村)	谷止工1個 谷止工嵩上工1個 山腹工0.15ha 土留工5個 水路工、緑化工 森林整備1.40ha (工期:H22~H24)	谷止工1個 森林整備0.40ha	谷止工嵩上工1個 森林整備1.00ha	谷止工嵩上工1個 山腹工0.15ha 土留工5個 水路工、緑化工 森林整備1.00ha	必要性 A	19%	計画どおり進んでいる。 H22年度は谷止工及び森林整備の50%が完了し、H23年度は谷止工嵩上及び残りの森林整備を実施する。	損傷が著しい谷止工の更新、溪畔林の整備を実施してきたが、平成22年7月豪雨により渓流から新たに土砂の流出があり、深床内にも不安定土砂が堆積しているため、既設谷止工の機能強化を図る必要がある。このため継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		8740万円	1700万円	2020万円	7040万円	重要性 A	特記事項 H22年7月豪雨により、渓流からの土砂流出あり。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=4.92				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
18	すなせ 砂ヶ瀬 (木曾町)	谷止工1個 床固工9個 (工期:H21~H24)	床固工2個	床固工3個	床固工5個	必要性 A	59%	H22までに深間工の50%完了。 H23は残る5個の床固工のうち3個を予定。	渓流に堆積する不安定土砂量が非常に多いことから、砂ヶ瀬集落の保全のために事業を継続する必要がある。	予定工期内の完了を図る。	「継続」
		9540万円	1740万円	2250万円	3870万円	重要性 B	特記事項 平成22年梅雨豪雨により堆積土砂の移動流出が発生。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=6.30				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
19	うるし沢 (木祖村)	谷止工4個 床固工1個 流路工55m 山腹工0.16ha 土留工5個 筋工290m 伏工1,150㎡ ほか (工期:H22~H24)	谷止工1個	谷止工3個 床固工1個 山腹工0.16ha 土留工5個	谷止工3個 床固工1個 流路工55m 山腹工0.16ha 土留工5個 筋工290m 伏工1,150㎡ ほか	必要性 A	30%	計画どおり進んでいる。 H22年度は谷止工1個完了。H23年度は引き続き 残る谷止工、床固工の設置とあわせ、山腹工に 着手。	H18年災害により発生 した崩壊地の上方 へ拡大を抑制し、下 流集落への土砂流出 を防止する必要がある。 緊急性が高いため 継続して事業を実施 する必要がある。	必要性、重要性が 認められる。	「継続」
		1億6760万円	5090万円	7320万円	1億1670万円	重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.98				
						緊急性 B	住民参加状況等 災害に強い森林づくりを目指し、事業区域周辺の森林整備を推進 するため、地域住民と行政とが一体となった取り組みの準備をして いる。				
20	ほらさわ 洞沢 (塩尻市)	谷止工 6個 森林整備 21.00ha (工期:H21~H25)	谷止工 1個 森林整備7.00ha	谷止工 1個 森林整備5.00ha	谷止工 4個 森林整備14.00ha	必要性 B	24%	計画どおり進んでいる。 H22年度までに谷止工2個と森林整備の1/3が 完了。H23年度は引き続き谷止工1個と森林整備 を実施。	渓岸浸食が著しく、 今後も国道に土砂が 流出するおそれが大 きいため、計画的に 施設整備と渓畔林の 整備を実施する必要 があるため、継続して 事業を実施する必要 がある。	重要性が高く、緊 急性も認められる。	「継続」
		1億2550万円	2020万円	2400万円	9490万円	重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=16.20				
						緊急性 A	住民参加状況等 地元区長や林野利用組合からの全面的協力を得て事業を実施し ている。また、区役員による定期的な巡視パトロールも実施してい る。				
21	にかわざわ 費川沢 (塩尻市)	谷止工6個 床固工3個 森林整備14.00ha (工期:H20~H24)	谷止工2個 森林整備5.00ha	谷止工1個 森林整備4.00ha	谷止工3個 森林整備9.00ha	必要性 A	55%	H22年度までに谷止工3個、床固工3個完了。 H23年度は引き続き谷止工1個と森林整備を実施 する。	H18年7月豪雨により 甚大な被害が発生 し、砂防事業、国有林 治山、民有林治山の 連携により対応してい る。新たな崩壊の発 生を抑制するための 森林整備を含め、事 業を継続して下流域 を再度災害から保全 する必要がある。	重要性が高く、必 要性、緊急性も認め られる。	「継続」
		1億9760万円	3270万円	3280万円	8950万円	重要性 A	特記事項 民官連携事業の一環として国有林治山事業及び砂防事業と連 携して行っている。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=5.30				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
22	たぎわ 田沢 (安曇野市)	山腹工2.50ha 土留工3個 法枠工3,560㎡ 実播工4,400㎡ 筋工660㎡ ほか (工期:H22~H26)	山腹工0.07ha 法切工60m3 筋工100m 伏工900㎡ ほか	山腹工0.15ha 土留工1個 実播工1,000㎡ 筋工75m ほか	山腹工2.43ha 土留工3個 法枠工3,560㎡ 実播工4,400㎡ 筋工560㎡ ほか	必要性 A	6%	H22年度は、全体計画調査を行い、対策工の 一部に着手。H23年度より本格的に崩壊地の復 旧を行う。	重要な保全対象に 近接した大規模な治 山工事施工地である が、施工後20年が経 過し部分的に再崩壊 の発生や植生の生育 不良が見られる。より 防災機能の高い森林 への誘導を補完する 整備を継続して実施 し、再度災害の発生 を防止する必要がある。	必要性、重要性、 緊急性が認められ る。	「継続」
		3億2310万円	1780万円	5130万円	3億530万円	重要性 A	特記事項 H23変更 事業費2億9千2百万円増、工期3年増 初年度(H22)の調査の結果、早急な対策が必要な新たな崩壊箇 所が判明し、全体計画の見直しを行う。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=4.57				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名		4 山地治山		補助・単独別		補助		林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針		
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況					
23	ふじあき 富士尾沢 〔安曇野市〕	谷止工4個 床固工6個 床固工増厚1個 流路工55m 山腹工0.03ha 土留工1個 伏工ほか 森林整備25.00ha 〔工期：H21～H25〕	床固工2個	床固工2個 床固工補修1個 森林整備5.00ha	谷止工2個 床固工4個 床固工補修1個 流路工55m 森林整備25.00ha	必要性 A	42%	H22までに谷止工2個、床固工2個、山腹工が完了。H23は引き続き床固工3個と森林整備を実施する。	上流域からの土砂流出と溪流沿いの浸食による土砂流出に対応するため、施設整備と森林整備を組み合わせ、流域全体の防災機能を高めるよう事業を継続する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」		
		重要性 A				特記事項 治山事業計画地下流にて砂防事業(貯砂ダム)実施(H22～)猛禽類の観測をいくつか、影響のないよう工事を進めている。							
		効率性 A				B/C(費用対効果)=4.98							
		緊急性 A				住民参加状況等 特になし。							
24	おおさわしんでん 大沢新田 〔筑北村〕	山腹工0.63ha 土留工4個 水路工176m 暗渠工(ホーリング)714m 杭打工50本 実播工1,770㎡ 伏工2,500㎡ ほか 〔工期：H19～H23〕	(H21繰越工事実施)	山腹工0.33ha 実播工1300㎡ 伏工2500㎡ ほか	山腹工0.33ha 実播工1300㎡ 伏工2500㎡ ほか	必要性 B	81%	H22年度までに土留工、暗渠工、杭打工等の主要工種は完了。H23年度に山腹面の緑化工事を行い、完了させる	地すべり性挙動を伴う山腹工であり、平成16年台風22号災害時に一級河川を閉塞した履歴がある。平成21年度工事での完了を目指していたがH22年7月豪雨により山腹工の一部が被災し追加対策工事が必要のため、事業を継続しH23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」		
		重要性 A				特記事項 H23変更 実播工等増、事業費4,950万円増、工期2年増 H22年7月豪雨災により山腹の一部が被災したため、追加対策工事が必要となった。							
		効率性 A				B/C(費用対効果)=2.10							
		緊急性 A				住民参加状況等 特になし							
25	くろみぞり 胡桃蔵里 〔大町市〕	谷止工4個 森林整備10.00ha 〔工期：H21～H24〕	谷止工2個	(H22補正繰越工事実施)	森林整備10.00ha	必要性 C	87%	計画どおり進んでいる。H22年度(当初)までに谷止工2個が完了。H23はH22補正(繰越)事業により、残る2個の谷止工を完成させる。	直下の県道に対する土砂流出を防止するため、施設整備と流域内の荒廃森林の整備を行い、新たな土砂流出を抑制して、再度災害防止のために事業を継続して実施する必要がある。	重要性、緊急性は認められる。	「継続」		
		重要性 A				特記事項 H22変更 山腹工0.2ha減、谷止工2個増、森林整備5ha増、事業費2,580万減 7月16日の豪雨で不安定堆積土砂が溪流内に新たに堆積。山腹は自然復旧が見込まれるため実施取りやめ。H23年度はH22事業(補正)の繰越工事を実施。							
		効率性 A				B/C(費用対効果)=2.59							
		緊急性 A				住民参加状況等 特になし。							

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山			補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課
----	-------------	----------	--------	--	--	--------	----	--------------

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
26	くま さわ 熊の沢 (池田町)	谷止工 4個 床固工1個 山腹工2.80ha 土留工7個 集水井工2個 暗渠工(ホ-リング) 3,680m 杭打工56本 ほか 森林整備3.00ha (工期:H15~H24)	山腹工2.80ha 集水井工2個	森林整備3.00ha	山腹工 0.50ha 暗渠工(ホ-リング) 1,480m 杭打工56本 森林整備3.00ha	必要性 B	64%	H22年度までに溪間工及び土留工、集水井は完了。H23年度は森林整備を実施すると共に地すべり対策工の効果判定を行う。	平成20年6月に確認された新たな地すべり活動は下流集落に影響する大規模な地すべりに拡大するおそれがあるため事業を実施してきた。H23年度は対策工の効果判定を行うとともに、森林整備を実施し今後の対策について検討するため、事業を継続する必要がある。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		5億110万円	6310万円	820万円	1億8190万円	重要性 A	特記事項 H21年変更 集水井工1個、暗渠工(ホ-リング)、杭打工増 谷止工1個減 事業費2億1365万円増、工期4年延長 H22.4月相道寺地区で地すべり災害発生 災害復旧は、犀川砂防事務所対応。全体計画を連携。 H22変更 集水井工1個増 事業費8310万円増 地すべりの対策工実施結果とその後の効果判定結果により、対策工追加 B/C(費用対効果)=4.05				
						効率性 A					
						緊急性 A	住民参加状況等 平成22年4月発生 of 相道寺地すべり災害を受け、参加するための体制を整えている。				
27	ひこまわ 彦沢 (池田町)	谷止工2個 床固工3個 流路工151m 森林整備2.81ha (工期:H20~H24)	床固工3個 流路工78m 森林整備1.71ha	谷止工1個	谷止工2個	必要性 A	65%	計画どおり進んでいる。 H22に彦沢の施設整備を完了。 H23は雑ヶ沢の谷止工1個を施工する。	旧土石流堆積物からなる急流部は局地的豪雨の際に土石流が発生しやすく、集落、公共施設に被害が及び危険が高いため、事業を継続する必要がある。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		1億4390万円	5500万円	2260万円	5001万円	重要性 A	特記事項 H22変更 谷止工2個増 事業費5,800万円増 工期2年延長 隣接する雑ヶ沢の荒廃を受け、対策工を増とした。 B/C(費用対効果)=9.09				
						効率性 A					
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
28	むかいだ 向田 (白馬村)	山腹工 0.73ha 法切工243m ² 補強土工700m ² 暗渠工(ホ-リング) 1960m 水路工 375m ほか (工期:H19~H23)	山腹工0.07ha 補強土工700m ²	山腹工0.50ha 暗渠工(ホ-リング) 1,468m 水路工130m	山腹工0.50ha 暗渠工(ホ-リング) 1,468m 水路工130m	必要性 B	67%	計画どおり進んでいる。 H22までにA7ロックの対策工を完了。H23年度にB7ロックの対策工を実施し完了予定。	平成15年、17年と連続して地すべり性崩壊が発生し、拡大を続けている。さらに拡大すると下流に甚大な被害を及ぼすおそれがあるため、地下水排除工の効果を確認しながら、拡大崩壊防止工事を継続し、H23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」
		1億6420万円	5110万円	5350万円	5350万円	重要性 A	特記事項 H21変更 法切工817m ² 、暗渠工(ホ-リング)1220m 水路工320m増 事業費1億5850万円増 工期3年延長 峰方沢左岸の護岸工は、大町建設事務所で実施する計画である。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=1.29				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課
----	-------------	----------	--------	--	--	--	--------	----	--------------

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
29	おおきわ 大なで沢	谷止工1個 護岸工200m 山腹工1.17ha 土留工2個 暗渠工(ホ-リング) 1,090m 水路工240m 伏工4,000㎡ ほか (工期:H19~H24)	谷止工1個 (副提)	山腹工0.10ha 土留工2個 暗渠工(ホ-リング) 540m 水路工50m ほか	護岸工200m 山腹工1.17ha 土留工2個 暗渠工(ホ-リング) 540m 水路工240m 伏工4,000㎡ ほか	必要性 B	74%	H22までに谷止工を完了、H23は新たに発生した崩壊箇所の復旧を図る。	平成20年6月豪雨により上流で地すべりが発生し、県道に土石流が流出した。当該県道は小谷温泉に通じる唯一のルートであるため、重要性は高い。新たに発生した地すべり性崩壊への対策を加え、溪流対策、地すべり対策を継続する必要がある。	新たな崩壊に対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」
	(小谷村)	3億530万円	3270万円	3060万円	7820万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 B	特記事項 H20.6月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所 H21変更 ポーリング暗渠工550m増、事業費1億7900万円増 工期3年増 H20年の災害後の状況変化に対応し、対策工見直し。 H23変更 山腹工0.1ha増、工期1年延長、事業費3660万円増 H22年融雪期に新規地すべり性崩壊が発生し対策工追加。 B/C(費用対効果)=2.33 住民参加状況等 特になし				
30	ななくぼ 七久保	山腹工2.80ha 土留工5個 水路工1,750m 法枠工3900㎡ 集水井工3個 暗渠工(ホ-リング) 3,260m ほか (工期:H19~H24)	山腹工2.80ha 水路工150m 法枠工500㎡ 緑化工1000㎡ 暗渠工(ホ-リング) 1300m	山腹工1.00ha 水路工100m 暗渠工(ホ-リング) 350m	山腹工2.80ha 土留工1個 水路工1,110m 暗渠工(ホ-リング) 600m	必要性 A	82%	上部斜面の整備が終わり、H23は暗渠工と表流水の処理のための水路工を実施。	山腹の拡大崩壊が下方の地すべりブロックの再活動に直結するため、事業を継続し山腹の安定を図る必要がある。	予定工期内での完了を図る。	「継続」
	(長野市)	6億5000万円	5460万円	1310万円	1億1891万6千円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 平成19年度より学識経験者等による検討委員会が発足。最新の観測結果に基づき対策工の検討を行いつつ、下方で同時に実施中の地すべり防止事業と一体的に復旧事業を進めている。 B/C(費用対効果)=7.30 住民参加状況等 特になし				
31	せんごく 仙石	山腹工3.00ha 土留工20個 落石防護柵100m 実播工1000㎡ 水路工670m 伏工1,510㎡ ほか (工期:H22~H25)	山腹工3.00ha 土留工17個 実播工160㎡ 水路工180m	山腹工1.00ha 土留工2個 水路工228m	山腹工3.00ha 土留工3個 落石防護柵100m 実播工840㎡ 水路工490m 伏工1,510㎡ ほか	必要性 B	47%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業により山腹崩壊7箇所への対策を実施。 H23は引き続き山腹崩壊地の2箇所の復旧を進める。	H22.7月梅雨前線豪雨災害では、崩壊地から土石流が発生し、下流の農地、市道にまで流出した。崩壊した一連の斜面は、今後の降雨により再度、同様な崩壊が発生する恐れがあるため、災害関連緊急治山事業に引き続き、早急を実施する必要がある。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
	(長野市)	1億9250万円	9000万円	3690万円	1億250万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 H22年7月豪雨災により、下方の農地、市道が被災。 災害関連緊急治山事業対応。 B/C(費用対効果)=2.89 住民参加状況等 特になし				
32	いし 石杭	山腹工0.50ha 落石防護柵工174m 転石破碎工62m3 落石固定工3,060㎡ 森林整備4.40ha (工期:H20~H24)	山腹工0.05ha 落石防護柵35m 転石破碎工26m3 森林整備2.00ha	山腹工0.10ha 転石破碎工36m3 落石固定工1,060㎡	山腹工0.10ha 転石破碎工36m3 落石固定工3,060㎡	必要性 A	44%	H22年度までに落石防護柵工及び森林整備が完了。H23は新たに確認された転石の固定工を実施する。	山腹下方には県道及び人家が位置し、隣接する山腹中腹部にも新たに不安定な転石が複数存在することが判明したため、対策を追加して実施する必要がある。	新たに確認された転石に対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」
	(千曲市)	1億3760万円	2070万円	2950万円	7640万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 H23変更 転石破碎、落石固定工の増、事業費7680万円増 計画地に隣接する山腹斜面に不安定な転石が複数存在することが判明し、対策工を追加。 B/C(費用対効果)=2.87 住民参加状況等 住民参加により森林整備を実施している。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
33	おおさわ 大沢 (高山村)	谷土工嵩上1個 護岸工20m 山腹工0.60ha 土留工8個 吹付工520㎡ 暗渠工(ホーリング) 300m アツカ-工60本 伏工5,250㎡ ほか (工期:H22~H24)	谷土工嵩上1個	山腹工0.20ha 土留工3個 吹付工520㎡ 伏工1,755㎡ ほか	護岸工20m 山腹工0.60ha 土留工8個 吹付工520㎡ 暗渠工(ホーリング) 300m アツカ-工60本 伏工5,250㎡ ほか	必要性 B	26%	計画どおり進んでいる。 H22は谷止工を実施。H23より山腹工に着手する。	崩壊は地すべり性であり、大規模な再崩壊も想定されるため、被害抑制対策として、崩壊末端部の安定工事と崩壊地の復旧工事を継続して実施する必要がある。	重要性が高い。	「継続」
		重要性 A	特記事項 特になし。	効率性 B/C(費用対効果)=1.22	緊急性 B	住民参加状況等 特になし。					
34	よこゆがわ 横湯川 (山ノ内町)	山腹工0.30ha 土留工7個 水路工129m 伏工3,200㎡ ほか (工期:H20~H23)	山腹工 0.18ha 土留工1個 伏工552㎡ 筋工17m	山腹工 0.12ha 土留工2個 水路工69m 伏工1,240㎡ ほか	山腹工 0.12ha 土留工2個 水路工69m 伏工1,240㎡ ほか	必要性 B	61%	H22までにA1,A2ブロックの復旧が完了。 H23に新たに崩壊したA3ブロックを完了させる。	H18年7月豪雨により山腹崩壊が発生し、拡大崩壊した際には下流旅館街に被害が及ぶ危険性が高い。早急に復旧する必要があるため事業を実施してきたが、H22年7~8月豪雨により既設山腹施工地内で新たな崩壊が発生しており、これに対応するためにも事業を継続し、H23年度での完了を図る。	新たな崩壊に対する追加対策の必要性が認められる。 平成23年度での完了を図る。	「拡大」
		重要性 B	特記事項 H23変更 山腹工0.12ha追加 47,500万円増 工期延長1年 平成22年7~8月の豪雨で隣接した既設山腹施工地内で新たな崩壊が発生し、緊急に対応する必要があるため、全体計画を変更して対応する。	効率性 A	B/C(費用対効果)=2.73	緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
35	ななまがり 七曲 (木島平村)	山腹工 3.00ha なだれ予防柵243m 落石固定工9,000㎡ (工期:H17~H24)	山腹工 0.30ha なだれ予防柵49.5m 落石固定工4,230㎡	(H22補正繰越工事実施)	山腹工 0.17ha 落石固定工1,700㎡	必要性 B	83%	計画どおり進んでいる。 H22までになだれ予防柵が完了し、落石固定工の81%を実施。H23はH22補正(繰越)事業を実施する。	地形、気象、過去のなだれ及び落石災害履歴から、直下の国道になだれ及び落石の被害が及ぶ危険性が高いため事業を継続する必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		重要性 A	特記事項 H21変更 落石固定工9000m2増、事業費2億3000万円増、工期延長2年 落石発生源の状況を調査した結果、落石対策として落石固定工が必要であるため、計画変更。 H23年度はH22事業(補正)の繰越工事を実施。	効率性 B	B/C(費用対効果)=1.32	緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
合計	35箇所	70億240万円	15億1870万円	12億830万円	30億2479万6千円			A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満			

(様式2B) 個別箇所評価総括表(継続) (要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)			補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
1	からさわ 唐沢	谷止工1個 山腹工1.10ha 排土工18,130m ³ 水路工548m 法枠工1,840m ² 筋工・伏工 アソカ-工38本 〔工期:H19~H23〕	(休止)	山腹工0.20ha アソカ-工38本 伏工800m ²	山腹工0.20ha アソカ-工38本 伏工800m ²	必要性 B	74%	計画どおり進んでいる。 H21~H22は林道改良事業優先のため山腹工は休止。H23に事業を再開、アソカ-工等の残工事を行い完了。	H19年災害により発生した大規模な地すべり性崩壊地であり、当初計画どおりのアソカ-工が必要であること、林道工事が完了したことから事業を再開し、平成23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」
	[上田市]	1億7750万円	- 円	4690万円	4690万円	重要性 B 効率性 A 緊急性 B	特記事項 H19災害関連緊急治山事業着手。(H20に繰越) H21, 22は直下の林道改良工事実施のため、休止。 事業箇所20m上流に名水(福寿の水)があり、通年で水汲みに訪れる人が絶えないこと及び、サンショウウオ自生地による維持管理も重なり、通行量が多いため交通の影響が大きい。 B/C(費用対効果)=2.20 住民参加状況等 特になし				
2	あけだおし 明通	谷止工12個 山腹工0.05ha 土留工1個 水路工20m 伏工500m ² ほか 〔工期:H22~H26〕	谷止工2個 山腹工0.05ha 土留工1個	谷止工3個	谷止工10個 山腹工0.05ha 水路工20m 伏工500m ² ほか	必要性 A	17%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業により谷止工2個を実施。 H23年度は引続き谷止工3個を施工する。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
	[青木村]	1億9150万円	3320万円	4120万円	1億5830万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 平成22年7月豪雨災により、下方の国道へ土砂が流出。 災害関連緊急治山事業対応。 H23以降の計画はH22災害のフォローアップ事業。共通の保全対象である下方の弘法集落及び国道143号線への土石流を防ぐ観点から、エリア内の各渓流に残る不安定な土砂を補足し、安定した渓床を確保するため、谷止工設置と山腹崩壊地の復旧を進める。 B/C(費用対効果)=6.30 住民参加状況等 特になし				
3	しもしいぬまざわ 下飯沼沢	谷止工3個 床固工6個 護岸工69m 〔工期:H20~H23〕	床固工4個 護岸工34m	床固工2個 護岸工35m	床固工2個 護岸工35m	必要性 A	87%	計画どおり進んでいる。 H22までに谷止工3個と、床固工・護岸工の約60%が完了。H23は残る床固工、護岸工を実施し完了させる。	平成18年7月豪雨により土砂が流出した集落背後の扇状地における土砂流出抑止対策であり、事業を継続し、H23年度での完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」
	[辰野町]	1億620万円	2180万円	1420万円	1420万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 H22変更 事業費 10,000千円増 工期2年延長 下流工法見直し(流路工を床固工、護岸工へ) B/C(費用対効果)=4.90 住民参加状況等 地元住民が降雨のたびに、応急対応で設置したブルーシートの点検・補修、流域の点検を行なっている。				

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)			補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課
----	-------------	----------	----------------	--	--	--------	----	--------------

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
4	おだつの 小立野 (生坂村)	谷止工4個 床固工3個 流路工60m 山腹工0.02ha 土留工2個 伏工290㎡ ほか 森林整備 3.00ha (工期:H22~H24)	谷止工4個 床固工1個 流路工60m 森林整備1.00ha	(H22補正繰越工事実施)	床固工2個 山腹工0.02ha 土留工2個 伏工290㎡ ほか 森林整備2.00ha	必要性 A	69%	計画どおり進んでいる。 H22年度(補正含む)谷止工4個、床固工1個、流路工と森林整備の1/3が完了。	浸食の進行、溪畔部分森林の荒廃により、局地的な豪雨の際には流木を伴う災害が発生するおそれがあるため、森林整備と施設を一体的に実施する必要があるため、事業継続の必要性は高い。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
		8730万円	6000万円	- 円	2730万円	重要性 A	特記事項 H23年度はH22事業(補正)の繰越工事を実施。				
					効率性 A	B/C(費用対効果)=7.55					
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし					
5	おおさわにし 大沢西 (筑北村)	谷止工3個 山腹工0.07ha 土留工3個 水路工26m 伏工640㎡ほか (工期:H22~H24)	谷止工1個	山腹工0.07ha 土留工3個 水路工26m 伏工640㎡ほか	谷止工2個 山腹工0.07ha 土留工3個 水路工26m 伏工640㎡ほか	必要性 B	32%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業により谷止工1個を実施。 H23は発生源の山腹を復旧させる。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	重要性、緊急性が高い。	「継続」
		1億1420万円	3670万円	2360万円	7750万円	重要性 A	特記事項 H22年7月豪雨災により、下方の人家及び農地に土砂が流出。災害関連緊急治山事業対応。				
					効率性 A	B/C(費用対効果)=4.30					
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					
6	とがわ 戸川 (筑北村)	谷止工8個 谷止工嵩上1個 流路工25m (工期:H22~H24)	谷止工3個	谷止工1個 谷止工嵩上1個 流路工25m	谷止工5個 谷止工嵩上1個 流路工25m	必要性 A	40%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業により谷止工3個を実施。 H23は引き続き荒廃溪流への谷止工1個、谷止工嵩上1個を施工する。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる	「継続」
		1億2680万円	5040万円	1970万円	7640万円	重要性 A	特記事項 H22年7月豪雨災により、下方の村道が被災。災害関連緊急治山事業対応。				
					効率性 A	B/C(費用対効果)=4.78					
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)		補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度未進捗率	進捗状況			
7	こさかうら まわ 高坂裏ノ沢 (飯綱町)	谷止工2個 森林整備1.40ha (工期:H22~H23)	谷止工1個 森林整備1.40ha	谷止工1個	谷止工1個	必要性 B	54%	計画どおり進んでいる。 H22は谷止工1個と森林整備を実施。H23は 残る谷止工1個を実施し事業完了予定。	当該箇所すぐ下流 には生活配水池、村 道、集落が位置する。 右側の沢では、平成1 1年7月豪雨により土 砂が流出し、谷止工 が施工されている。当 該箇所においても、土 砂の崩壊により、人家 に危険が及ぶだけで なく、生活配水の支障 が懸念されるため、事 業を継続し、H23年度 での完了を図る。	平成23年度での完 了を図る。	「継続」
		3590万円	1950万円	1640万円	1640万円	重要性 B	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=12.97				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし				
合計	7箇所	8億3940万円	2億2160万円	1億6200万円	4億1700万円						

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃団地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(地域防災対策総合治山)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
1	よみかき 読書 (南木曾町)	谷止工3個 谷止工高上1個 山腹工1.05ha 落石固定工3,110㎡ 実播工800㎡ 伏工7,500㎡ ほか 森林整備23.30ha 〔工期：H21～H25〕	山腹工0.18ha 落石固定工2,410㎡	谷止工高上1個 山腹工 0.12ha 落石固定工700㎡ 実播工800㎡	谷止工1個 谷止工高上1個 山腹工 0.85ha 落石固定工700㎡ 実播工800㎡ 伏工7,500㎡ 森林整備23.30ha	必要性 A	34%	計画どおり進んでいる。 H21～H22は北沢支沢の谷止工及び蛇抜沢 の山腹工を実施。H23は蛇抜沢の山腹工及 び谷止工高上を引続き実施する。	過去の災害で多数 の崩壊が発生した流 域において、これまで の治山工事により復 旧された森林を、防災 機能の高い森林に誘 導する森林整備や、 既存施設の高上げ等 により土砂流出防止を 図る計画であるため 事業を継続する必要 がある。	必要性、重要性、 緊急性が認められ る。	「継続」
		3億3800万円	6880万円	6930万円	2億2240万円	重要性 A	特記事項 蛇抜沢は砂防事業と治山事業の連携で対応する計画で、砂防 事業による沈砂施設が下流に計画されている。	効率性 B/C(費用対効果)=13.06			
2	やしろ 社 (大町市)	谷止工4個 流路工360m 護岸工172m 山腹工0.89ha 土留工5個 法枠工1,210㎡ 伏工4,360㎡ ほか 森林整備18.10ha 溪畔林整備330m 〔工期：H19～H24〕	護岸工77m 山腹工0.42ha 土留工4個 水路工110m 筋工650m ほか 森林整備2.80ha	山腹工0.42ha 伏工3,030㎡ 森林整備6.40ha 溪畔林整備100m	山腹工0.42ha 伏工3,030㎡ 森林整備6.40ha 溪畔林整備330m	必要性 B	81%	H22までに谷止工・護岸工等の溪間工は完 了。H23は山腹工の残分と森林整備、溪畔林 整備(簡易治山施設)を実施する。	H16年台風23号災に より人家・基幹道路が 被害を受けた地域で あり、H19年災害によ りさらに荒廃が進行し て流木災害が発生す るおそれがあるため、 溪畔森林の整備を継 続して実施する必要 がある。	予定工期内の完 了を図る。	「継続」
		4億7490万円	6000万円	3930万円	9060万円	重要性 A	特記事項 特になし。	効率性 A			
合計	2箇所	8億1290万円	1億2880万円	1億860万円	3億1300万円	A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満					